

当面の技術対策（畜産編）

平成23年9月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 乳牛飼養管理について

(1) 飼料給与管理について

気温の低下とともに、飼料摂取量（乾物摂取量）は徐々に増加します。日々の残飼量を確認し、採食量が不足しないように（餌槽が空になる時間が無いように）飼料給与量を加減しましょう。また、サイレージ品質、飼料のカビの発生に注意して給与しましょう。

(2) 繁殖管理について

夏期間の暑熱ストレス・体力低下により、受胎率の低下が懸念されます。また、9月は昼夜の気温差が大きく、畜舎内湿度は高めに推移します。畜舎の快適性（換気・送風等）を維持するとともに、MUN等の乳質データを活用して栄養管理を徹底しつつ、繁殖記録の確認・繁殖台帳の活用と発情徴候の十分な観察を行い、繁殖成績の低下を防ぎましょう。

(3) 衛生管理について

同上の理由により乳牛の抵抗力が落ち、サルモネラなどに感染しやすくなります。畜舎、器具の清掃を定期的に行うとともに、家畜、作業衣等を清潔に保ちましょう。

牛舎出入り口には消毒槽を設置して、作業靴等の消毒を徹底し、衛生状態向上に努めましょう。

(4) 生乳の抗生物質混入等事故防止について

2番草の収穫等、牛舎外作業が多い時期ではありますが、家族間での連絡徹底、乾乳牛、治療牛の確認・マーキング作業等を徹底しましょう。

2 2番草の収穫作業 及び 草地管理について

(1) 刈り遅れると栄養価が低下するばかりでなく、倒伏により下草が腐敗し、品質の低下につながります。また、ほ場の植生を悪化させる要因にもなります。

(2) アルファルファの越冬性を低下させる刈取り危険帯は9月下旬～10月上旬です。この期間の刈取りを避けた収穫が行えるよう、計画的な作業を行いましょう。

(3) 低収量ほ場や、イネ科雑草やギシギシが全体の30%以上であるほ場を確認し、来春以降の更新に向けた計画を立てましょう。

(4) ギシギシの防除は秋処理が有効です。2番草収穫後、ギシギシの葉が手のひらの大きさに展葉した頃が除草剤散布の目安となります。

3 サイレージ用とうもろこしの生育状況について

今年の生育も、平年より早めに経過しています。定期的にほ場で子実熟度を観察・確認し、黄熟期～完熟期（破碎処理等必要）での適期収穫に向け、作業機械・諸資材等を例年より早めに準備しましょう。

2時間に20分は休みを取りましょう！
搾乳衛生の徹底を！